

証券市場新聞

1 第150号

日経平均株価

2万2694円66銭

▲103円80銭(前日比)

TOPIX

1702.45

▲0.59(前日比)

2018
10/15
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6C
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861
marketpress.jp



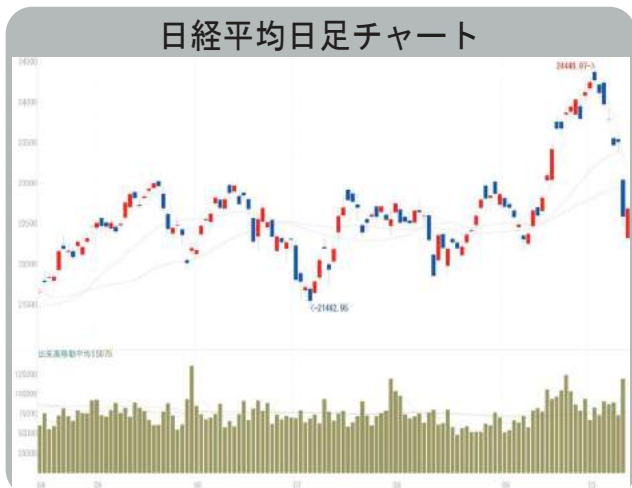
生分解性プラ普及加速へ 国内でも取り組み強化の動き



プラスチック製ストローの廃止
など様々動きが加速している

イセブン・ホールディングス(41)は、国内でもプラスチック製ストローの廃止など、環境配慮の動きが加速している。セブン・ホールディングスは、国内でもプラスチック製ストローの廃止など、環境配慮の動きが加速している。

国内でもプラスチック製ストローの廃止など、環境配慮の動きが加速している。



生分解性プラスチックが国内でも今年に入ってその存在が改めてクローズアップされた背景には、欧米で使い捨てプラスチックを禁止する動きが活発化したことがあげられる。英国では2019年から使い捨てプラスチックの販売や配布を

禁止する法案が成立しており、EU各国も追随する姿勢を見せている。スターバックスのスターバックスコーヒーが使い捨てストローの廃止を打ち出したことは記憶に新しいが、NY発祥の本格アメリカンスタイルであるTGI Friday'sでも2019年12月までに生分解性プラスチックの導入を予定している。

ダイニング(338)傘下のセブインでもレジ袋有料化とともに、プラスチック製ストローの代替を検討している。国内で新規参入して

使捨てプラ禁止世界に拡大

海洋プラスチック汚染が深刻化するなかで、生分解性プラスチックに置き換える動きが加速しそうだ。プラスチックは時間の経過とともに粒子化(マイクロプラスチック)し、生態系への悪影響が懸念されており、世界的大手コーヒージェーンが使い捨てストローの廃止を打ち出すなど、大手外食企業を中心に環境保全への取り組みを強めている。利便性からその代替には生分解性プラスチックが本命視されており、国内企業も増産や新規参入の動きにある。

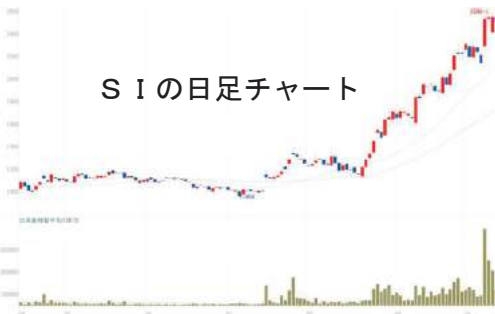
18)は25億円を投じて生分解プラスチックの年産能力を1000トンから5000トンに引き上げる計画であるほか、三菱ケミカルホールディングス(418)もストローに使用可能な新素材を開発している。GSICレオス(8101)は欧州の大手生分解性プラスチックメーカーであるノバモント社(イタリア)と契約し10月から国内で新規参入して

今週の動意銘柄

SIが急伸し最高値

2Q83%営業増益を材料視

週明け9日、システムインテグレータ(3826)が急伸、最高値を更新した。19年2月期第2四半期累計の単体決算を発表、売上高は20億8800万円(前年同期比43.1%増)、営業利益は2億7500万円(同82.8%増)、純利益は3億8700万円(同3.7倍)と大幅な増収増益を



SIの日足チャート

京進46%増益で自社株買

10日、京進(4735)がストップ高。19年5月期の第1四半期連結決算を発表、売上高50億9000万円(前年同期比10.0%増)、営業利益4億1500万円(同45.6%増)と大幅な増益だった。学習塾では新たなプログラムの開始などが支持を得て、春の集客で生徒数

が前年を上回った。同時に自己株式取得枠を設定を発表、上限50万株または5億円で、10月10日から19年10月9日まで。ソフトバンク財務負担10日、ソフトバンクグループ(9984)が大幅続落。ウォール・ストリート・ジャーナルが「米シェアオフィス運営大手ウイワークの過半数株式取得に向けて協議している」と報じたことがネガティブ視された。出

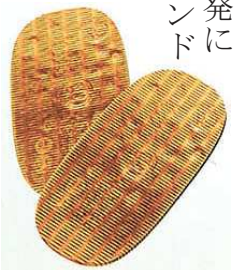
公開価格の1.6倍 10日、CRGGホールディングス(7041)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格1120円の1.6倍となる1832円で初値をつけた。人材派遣紹介関連事業を展開する

竹内製は失望売り 11日、竹内製作所(6432)が急反落。19年2月期通期の連結業績予想について、売上高を970億円から1060億円(前期比12.4%増)、経常利益を124億円か

ら138億円(同17%減)に上方修正したが、期待値に届かず失望売りを浴びた。欧州向け販売が好調だが、原材料価格や運送費が増加する。収益上振れで期末一括配当を40円から45円(前期36円)に引き上げた。

正直いいさんの株で大判小判

週末は11日の暴落の影響を引き継ぎ、前場は日経平均では2万2400円割れまで売られました。ただ、時間外取引の米株価指数先物が高く、ジャスダックやマザーズ指数も反発しており、後場からはプラから日経平均は突破後に3700円超が、今回は過ぎの反動先物による加速させただけ着きを取り戻す展開を想定しています。銘柄のダイキン(6367)、ジャムコ(7408)、任天堂(7974)、ゼンリ(9474)はいずれも下げ渋りから反発に転じました。全般リバウンド時なら、225先物ミニや225ETF(1320)を買う戦略も有効です。 花咲翁



企業観察

キリン堂HD (3194)

下期偏重で粗利改善進む

月9日に19年2月期第2四半期累計(3~8月)の連結決算を発表。売上高は650億3500万円(前年同期比2.2%増)、営業利益は8億4700万円(同10.2%増)、純利益は6億9600万円(同9.4%増)となった。売上高と営業利益では計画未達となっているが、これは猛暑で飲



寺西豊彦社長

キリン堂ホールディングス(株)は10月19日、

第2四半期は10.2%営業増益

料が伸びた反面、殺虫剤などが減少したことや大阪北部地震と台風の影響が影響している。特売品見直しなどチラシ内容変更で来店客数が減少する一方、粗利益率の改善は進んでいる。

「売り上げは元々下期変調を想定、下期も改装など既存店活性化に取り組み来店客数増を図る」(寺西豊彦社長)として、通期について売上高1315億円(前期比3.8%増)、営業利益25億8000万円(同33.2%増)、純利益14億6000万円(同13.0%増)の従来予想達成に意欲を見せている。

今週の動意銘柄

12日、ファーストリテイリング(9983)が下落。19年8月期の連結業績は売上収益2兆3000億円(前期比8.0%増)、営業利益は2700億円(同14.3%増)と増収増益を見込んだが、朝高の後は、指数構成銘柄への思惑的な動きから値を崩す展開。アナリストコン

センサスも上回った。公開価格8%下回る

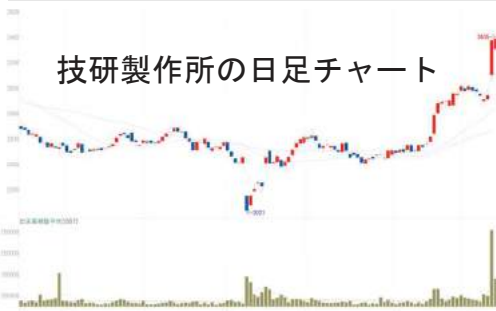
Deltaの初値

12日、Delta a-Fly Pharma(4598)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格4770円を8.1%下回る4385円で初値が生まれた。医薬品などの研究開発、製造、販売を行う。

技研製作所が急伸

中計で売上高400億円目指す

11日、技研製作所(6289)が8日(10月10日)の取引終了後、19年8月期の連結業績予想を発表、売上高は312億1000万円(前期比2%増)、営業利益は64億2000万円(同7.4%増)、純利益は45億6000万円(同6.4%増)と、営業利益



技研製作所の日足チャート

00万円(同9.8%増)を見込んで、同時に中期経営計画を発表、インフラント工法で世界の建設を変えようとし、

目標最終年度である2021年8月期に売上高400億円を指している。

週末12日、コシダホールディングス(2157)がストップ高。19年8月期の連結業績で、営業利益93億4500万円(前期比8.9%増)と前期に続いて大幅増益を見込んだことが好感された。首都圏を中心とした店舗数とル

コシダホールディングス増益続く

10月のジンクス

1929年10月24日の「世界大恐慌」、1987年10月19日の「ブラックマンデー」など10月は何かとNY市場が急落することが多い月であり警戒しておりましたが、NYダウは10月3日に2万6951ドルの最高値からわずか6日間で2万4889ドルまで2062ドル(7.6%)下落。日経平均は10月2日の年初来高値である2万4448円からわずか7日間で2125円(8.6%)下落とジンクスの当たり年となってしまいました。

NYの主要指標は200日線を一気に割り込み、日経平均はかろうじて200日線近辺で踏みとどまっています。日経平均は先週週足陰線包み足となりましたが、今月2万2172円を割り込むと月足でも陰線包み足となります。9月安値



近辺まで下げれば買い目線、そして当面は戻り売り機敏に対処する必要があります。日々勇太朗

転ばぬ先のテクニカル

長期上昇相場新たに始る

リーマンショック以降を検証

国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

株式市場の長期上昇相場は10年周期で完了するという仮説から、リーマンショック以降10年経過した今年後半の株式市場に注目する。そこで、NYダウをエリオット波動理論で検証した。

第一波の上昇波が始まったのが、2009年3月9日の6547ドルからで、11年4月29日の1万2810ドルまで25カ月で約96%上昇した。第二波の調整波は11年10月3日の1万9655ドルまで5カ月で約17%下落した。第三波の上昇波は15年5月19日の1万8312ドルまで43カ月で約72%上昇した。第四波の調整波は16年2月11日の1万5660ドルまで9カ月で約14%下落した。そして長期上昇相場の最終局面にあたる第五波の上昇波は今年1月26日の2万6616ドルまで25カ月で約70%上昇した。

仮にこの上昇波が最終波動と仮定した場合、長期の上昇相場は終了したことになる。その後1月の高値から3月23日の2万3533ドルまで下落し、2カ月で約12%下落している。この下落幅が小さく、短期間であることから五波動の最終局面の判断に疑問が残る。

また、今回の上昇相場のスタートから10年目は来年の3月であることから、最終判断に疑問が残る。しかし、その後9月21

相場展望

日に1月の高値を抜け史上最高値を更新したこと、3月23日の安値を下回らない限り、新たな長期上昇相場が始まった可能性が高い。



プロが教える

法人向け保険ならお任せ！

節税対策にも最適

お客様のニーズに応じた最適な商品・ベストプランを提携保険プランナーを通じてご提案します。

詳しくはココ・パートナーズ（株）アドバイザリー業務部まで。

info@marketpress.jp

潮流

10月で大底を確認へ

機械的急落のあとは大幅高も

marKet / bAnk

トランプ米大統領は10日の米株式市場が大幅安となったことを受け「米連邦準備理事会

(FRB)は狂ってしまった。引き締めすぎだ」と述べて、FRBによる利上げを批判した。

トランプ氏は9日にもFRBが9月26日に利上げを決めたことに対して「残念なことに、米経済が好調なため、FRBは少し利上げした。私はそれが不満だ」と述べた。利上げによって、住宅ローンや企業がお金を借りる際の金利も上がり、「景気が悪くなる」とも話した。さらに、FRBの利上げについて「早く動く必要はない」と述べた。「再びインフレにはならない」と説明し、利上げによる経済の引き締めよりも、経済成長を優先すべきだとの考えを示した。11月の中間選挙を控え、経済の減速を避けたいのだろう。そのうえで「この傾向を少したりとも減速させてほしくない」と指摘。早期の追加利上げによる経済の引き締めは好ましくないとの見方を示した。

現職大統領がFRBの利上げの是非に言及するのは異例だ。不動産王のトランプ大統領にとって住宅と株式市場の下落は絶対に避けたいと考えており、それが米国投資家に安心感を与えている。9月のサプライマネジメント協会(ISM)非製造業景況感指数は61.6と統計を連れ

る1997年8月以来で最も高くなった。米景気の拡大基調は想定以上に強い。その中での今回の株価急落。トランプ氏は株式相場下落について「長らく望んでいた調整だ」と指摘。一方で「FRBがしていることには同調できない」と強調した。連日の発言には、中間選挙を前に株価下落の主な責任は政権ではなくFRBにあるとの印象を広める思惑も透ける。

また、11日の日経平均は一時2万2459円まで下げた、この水準は200日移動平均となり予想PER13倍とアベノミクス相場ではほぼ下限に相当する。そこで日経平均の10年サイクルに注目だ。1998年10月の大底から2008年10月の大底までが10年。今月は2008年10月の大底からちょうど10年目に当たる。今回の日米株の大幅下落はヘッジファンドによるアルゴを使ったプログラム売買が引き起こした。機械的な急落は反対にプログラム売買で大きく上昇することにもなる。今月は大底が確認できるだろう。

潮流銘柄はテクノホライゾン(6629)、オプトエレクトロニクス(6664)、バリューコマース(2491)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

テクノホライゾンの日足チャート



アベノミクス相場の下限

チャートから読む 騰落銘柄

パイオラックス(5988)



50日線まで調整も9月13日の2186円を底に上昇基調継続。出来高は増加傾向で貸借倍率0.53倍の好需給から、8月9日の高値2822円を抜ければ5月15日の高値3225円が視野。

MSコンサル(6555)



1200円は強い下値抵抗帯で、日足は長い下ヒゲ陽線を引き反発。週足が陽転してから下値切り上げ型のボックス相場を形成しており、地合い好転時には年初来高値1446円抜けから一段高へ。

ヤマシンフィルタ(6240)



1月12日に1579円の最高値を付けて以降は、上下動を繰り返して下落基調が続く。17年10月16日に付けた722円以来の安値となり、これを割れると500円台までフシはない。

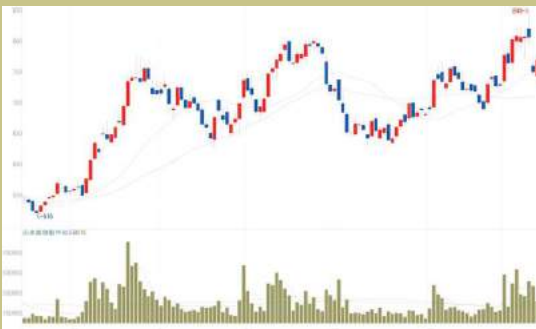
三菱自動車(7211)



戻り試すも地合い悪に押され、年初来安値圏へ。押し目買いに信用買い残が積み上がり、需給が重荷に。日足は再び陰転し月足も陰転の方向で、急降下してくる5日線に上値を抑えられ底割れも。

今週の

活躍期待銘柄



インテリジェントW(4847)

今6月期60%超の大幅増益

期待される業容拡大が期
 めており、更なる
 新製品開発も進
 業務システムの
 分野に適合する
 業界以外の産業
 を活用して金融
 積してきた技術
 か、これまで蓄
 はAI技術のほ
 込む。新規事業
 大幅な増益を見
 0・7%増)と

インテリジェントウェイ
 ブ(4847)の高値更新後
 のスピード調整は押し目買い
 で対処したい。目先の売り
 を吸収すれば中期的には再度
 上昇に転じ、1000円台を
 目指す動きに期待したい。
 大日本印刷傘下のソフト開
 発会社で、カード決済システ
 ムでは業界トップを誇る。ク
 レジットカードのアクワイア
 リングに加えて、不正検知業
 務など、関連する業務のクラ
 ウドサービス化も進んでおり、
 新規顧客の獲得も順調に推移。
 内部情報漏洩対策関連も
 伸びており、19年6月
 期は連結営業利益で8億
 8000万円(前期比6

新製品開発でさらに業容拡大



TDCソフト(4687)

連続最高業績で上振れ期待

拡大。通期は各々
 250億円(前
 期比4・4%増)、
 20億円(同8・
 0%増)と連続
 最高業績更新を
 見込むが、上振
 れが期待される
 状況。
 信用倍率、貸
 借倍率ともに1
 0倍台の好取組
 みも株価を押し
 上げていく。(さ)

TDCソフト(4687)
 は大勢上昇基調のなか再び新
 値をとり、一段高志向を鮮明
 にしてきた。
 金融機関向けアプリケーション
 ユンに優位性を持つシステム
 会社で、AI・データサイエン
 ス分野で新規ビジネスを強化
 アクティブ・ラーニングや
 エンタープライズアジャイル
 開発手法の研究、クラウド型
 ワークフローシステムなどへ
 の取り組みの成果が表明化し
 ている。19年3月期1Qは
 連結売上高55億7400万
 円(前年同期比10・1
 %増)、営業利益3億98
 00万円(同58・0%増)
 と2ケタ増収で利益が急

AI・データサイエンスで新事業

マド埋め後に大きく戻す

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

11日の日経平均は寄り付きからいきなり、5000円近い下げから始まりました。米国株式が813ドル安となったことや

円相場の急伸から売られたものでした。前日の下げから戻す動きが予想されたのですが、その期待も打ち砕かれて下げたことになりました。寄り付いた後も下げの圧力はとまらず下落幅を拡大しました。ほとんど戻ることもなく、日経平均は一時、後場に、1000円を超す下げ幅となり、全面安になり、12日も続落のスタートとなりました。米国株式の

NYも25000ドル割れで反発か?

上に企業業績がトランプ氏の関税引き上げによって後半に利益が失速する可能性が高くなったことを警戒して大きく売られたのでした。ドル相場も金利上昇によるドル高よりもうこうした先行き不安によるドル売りが優勢になって下落しました。上げトレンドが先日崩れる場面がありました。それによる下値圧力の強まりを警戒している局面でしたので、予想外の下落につながったといえるでしょう。しかし、強烈な下げとなっており、目先的にはまだ、底入れしたとは言えませんので、2万5000ドル割れ場面をみながらの反発となりそうです。日本株には米国株ほどの下落要因はないのですが、目先に円相場が円高に振れたことで米国安に対してツレ安しやすくなっています。112円台の円高場面は目先的にはだいたい円高の限界と考えられますので、来週にかけては円相場も落ち着くものと思われそうです。日経平均は2万2300円台までの下落を想定しています。それで開いていたマドがすべて

急落は特に刺激的な材料が飛び出したわけではなく、金利の先行きの悲観論が強く認識された



閉じることになり。後は大きく戻していく場面になるとみられ、今週は2万2800円どころまでの回復が見込めそうです。
アンジエス(4563)は十字足となって転換する可能性があります。ここからの突っ込み場面は拾う作戦を。SUMCO(3436)を拾い始めたのですが、11日の相場は売られたものの、引けにかけては買い値近辺まで戻しておりました。ここは凌ぐところ。伊藤忠商事(8001)と丸紅(800)の強さが光ります。

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～プルタブ式の缶～

コンビニ

ニ最大手のセブン・イレブンがレジ袋の有料化を検討する方針を明らかにするなど、外食を含めて様々などころで廃プラからの脱却に動き始めている。生態系への影響を考えると、行動に移すのが遅すぎた感じがするけど、数十年後には生分解性のもので置き換わることができる素材に全て置き換わって、人々の記憶から廃プラの存在が消えていくかもしれない。

環境破壊から既に消え去ってしまったものの一例にプルタブ式の缶がある。3連休中、とあるスポーツイベントに出掛けた際に、若いカップルが缶ビールの開け方に悩んでいたの、それを確認したら、絶滅したと思っていたプルタブ式の缶だった。これは引張ってタブを完全に切り離すタイプだと説明して実際に開けてみたが、「こんなのがあるんだ」と驚いていた。何語か分からない外国製のビールだったが、平成生まれだと、ポイ捨てで社会問題化したプルタブの存在を知らないんだなあと、そんなことを知っている昭和生まれの自分は年を取ってしまったと感じてしまった。

来年からは新元号に移行する。平成の時代の悪しき慣習も忘れ去られることになるかも知れない。



企業レター

バースデー記念パーティ JR西日本

「ハローキティ新幹線」で行く



JR西日本(9021)はサンリオ(8136)の人気キャラクターの「ハローキティ」の誕生日(11月1日)にちなんで、山陽新幹線で運行している「ハローキティ新幹線」を今回、団体専用列車として運行し、ティ新幹線ホームページ(<https://www.jr-hellokitty-tshinkansen.jp/>)で。

貸切の「ハローキティ新幹線」の運転日は11月2日、当日はキティに「おめでとう」を直接伝えられる! U S Jで開催のハローキティのためのサプライズ・パーティにも参加できる宿泊セットのスペシャルな旅行プランを発売中。詳しくはハローキティ新幹線ホームページ

「ケティング・パートナー」である、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)と連携し、1日限りの「ハローキティのバースデー記念パーティ」を開催する。

災害へ具体的解決策

クボタ、地震や地割れ、英浄化など

24〜26日、福岡水道展に出展

クボタ(6326)は10月24日〜26日にマリンメッセ福岡(福岡県)で開催される「福岡水道展」(主催:一般社団法人 日本水道工業団体連合会)に出展する。

福岡水道展では、管接合結果をタブレットに入力するだけで、施工管理用書類の自動作成が行える施工情報シ

テムやカメラを用いた施工進捗管理システムなどIoTを活用した水道工事「水道工事イノベーション」や地震だけでなく自然災害に強い「耐震型ダクタイル鉄管」、レベル2の地震変動

だけでなく、地割れや段差、液状化などに生じる地盤変動に対しても、管路機能を損なうことなく吸収する「水道配水用ポリエチレンパイプ」、施設設備管理システム/クラウド型マップピングなどクボタグループ各社の技術や最新製品を紹介し、具体的な課題解決策をご提案する。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

SQ前日の波乱

ボラ高い展開継続で短期勝負

オプシオンプレイヤーにとつてSQ日の前日に大きく動かされるのは痛い。

特に「ショートストラングル」を組む投資家には辛い。大体SQ週の前半くらいまでは警戒してポジションに対するヘッジを入れていくのだが、水曜日や前日は収益を上げるためにヘッジを外していく。今回はSQ前日に日経平均で約1000円安。500円安程度の変動ならポジションそのままで可能であるが、1000円を超えると必要証拠金の問題などでポジションを処分しなければならぬ。だから、「売りが売りを呼び、買いが買いを呼ぶ」展開となりやすい日なのである。

同じようなことが昨年の11月9日にあった。9日はSQ前日最終売買日、前場に約460円高となり最高値を取ったが後場からは急落、前日比約400円安まで下落し、上下幅約86

0円動いた。この時は大怪我したものの、今回は前回の反省もあり火傷程度で済んだが、オプシオンのショートをメインの投資スタイルとしている投資家は1年に1回はこのような状況に遭遇する。

この急変化を如何に回避するかが収益のポイントとなる。今回は独DAX指数や英国FT指数、上海指数などが既に調整相場入りしていたのにNYダウと日本株だけが確りしていた。

1ドル114円までいった円安の影響もあるが、112円台でも下落は起こらなかった。SQ通過後下落かと思っていたが外人投資家は一番収益の取れる可能性があるSQ前日を狙って仕掛けてきたようである。今回の下落で上昇過程で付けた「三空」をすべて埋めた。逆に下落過程で「三空」

を作っており反転も期待できよう。その時は10日(2万3373円54銭)と11日(2万3051円19銭)の窓埋めがポイントだろう。

ただ、3月26日の安値2万347円49銭を起点とする今年の上昇下値ライン(2万2450円処)を金曜日に割ってきており1月の高値と10月の高値でダブルトップを形成した可能性もある。そうなれば2万2000円割れもあり得る。9月7日の安値2万2172円を守るかがポイントだろう。今週もボラテイの高い相場展開となると思われるため短期勝負で望みたい。(ハチロク)

編集後記

大荒れの1週間だった。日経平均はマドを空けて急落を続け、前の週と合わせてたわずかに8日間で9月1ヵ月分の上昇を帳消しに。前月までの総強気相場から一転して弱気ムードが蔓延した。ただ、先物にかかわっている人に言わせると、3月のような悲壮感はなく、週末の反発も予見できたという。日経平均先物ナイトやオプシオンの状況から判断して、週明けからは反騰に転じる可能性が高いらしい。

東京市場は海外投資が先物でつくっている相場であること、これを改めて痛感した。

今週のスケジュール

- ・15日 米9月小売売上高、米10月NY連銀製造業景気指数(21:30)
- ・16日 9月首都圏新規マンション発売(13:00)
家電・ITの国際見本市「シートック・ジャパン2018」(~19日)
9月訪日外客数
独10月ZEW景況感指数(18:00)
- ・17日 EU首脳会議(~18日)
米9月住宅着工件数(21:30)
米9月25・26日開催のFOMC議事録
- ・18日 9月貿易統計(8:50)
地域経済報告(さくらレポート)
米9月CB景気先行総合指数(23:00)
- ・19日 9月消費者物価(8:30)
中国7-9月期GDP、中国9月都市部固定資産投資(11:00)
米9月中古住宅販売件数(23:00)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。